

楽[®]天

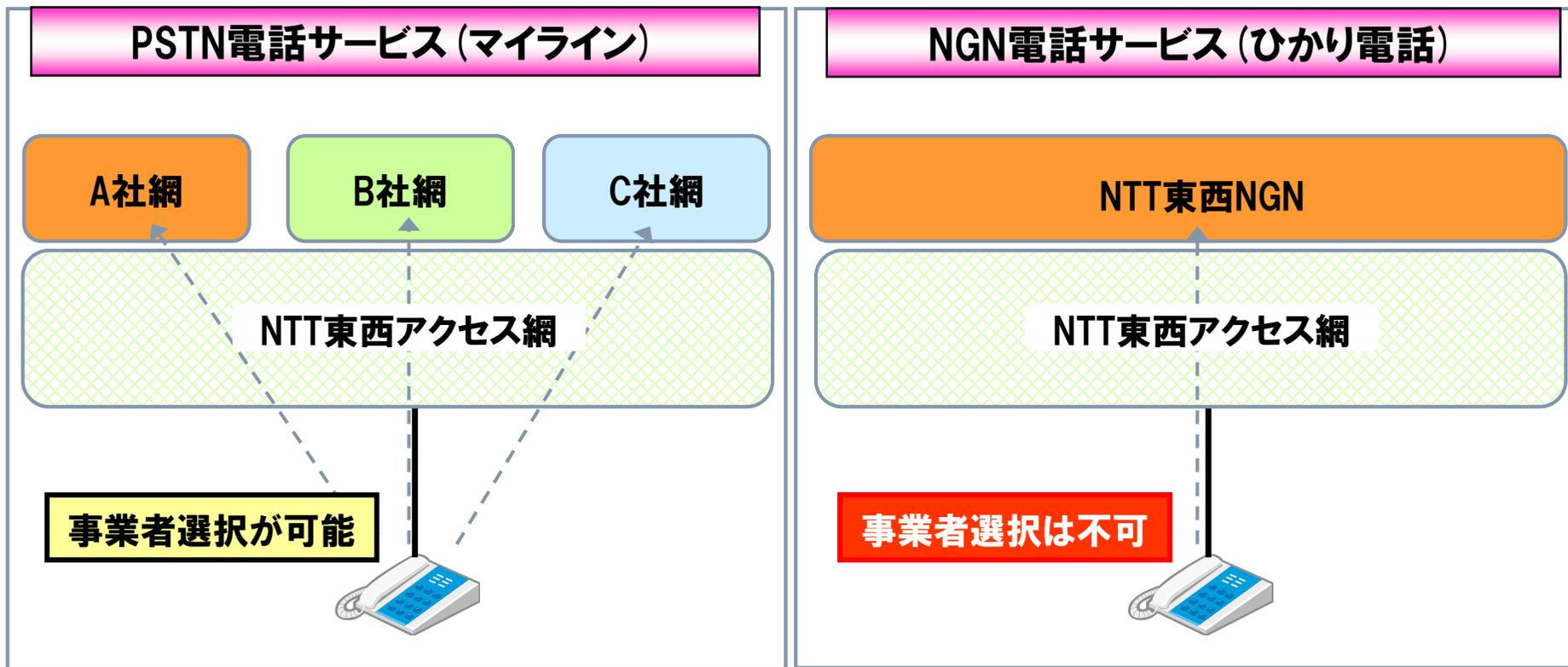


電気通信事業政策部会・電話網移行円滑化委員会
合同公開ヒアリング資料

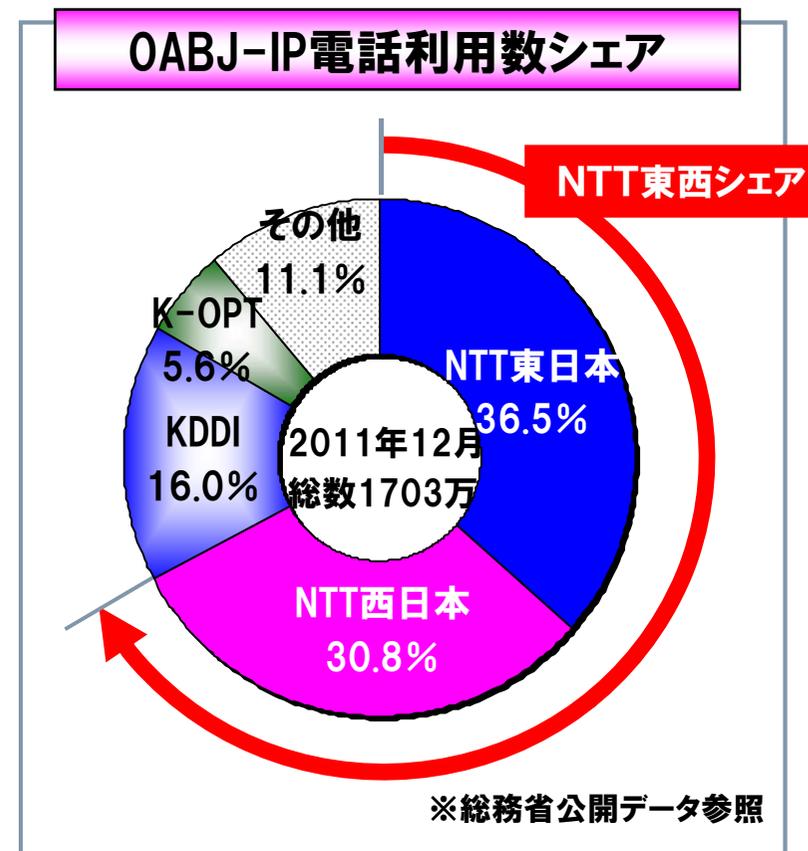
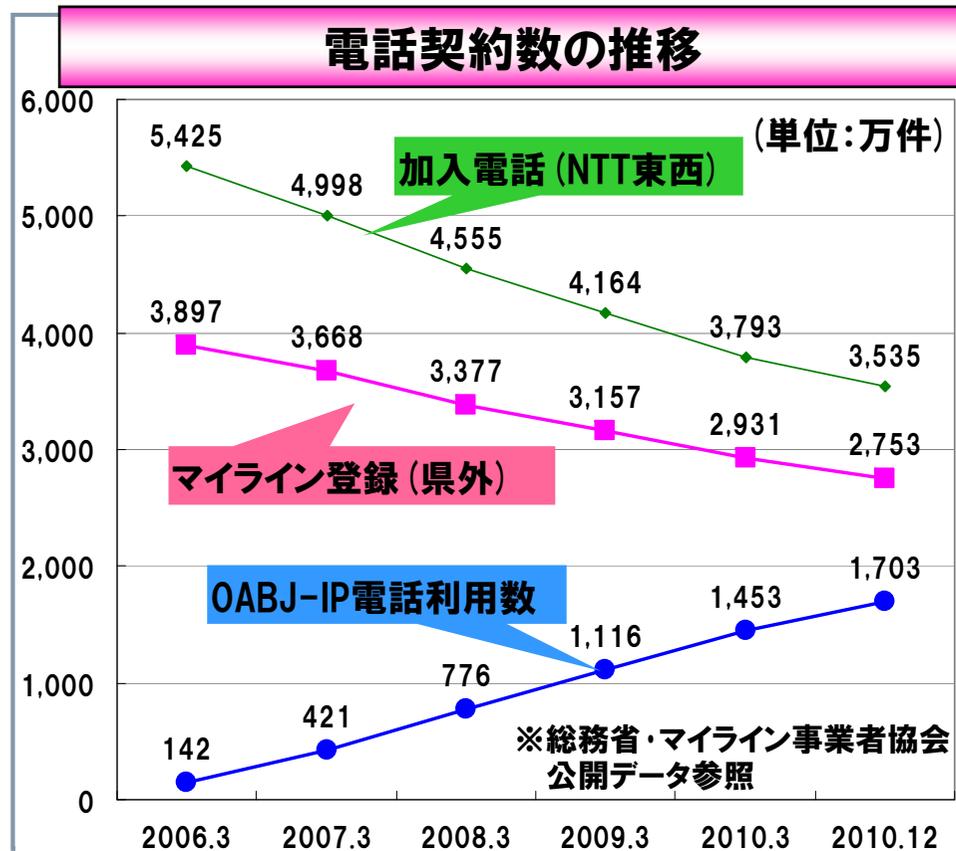
2011年6月17日

フュージョン・コミュニケーションズ株式会社

- OABJ電話サービスにおいて、PSTNではマイライン制度により、ユーザ（発信者）は事業者を選択できる。（同制度により競争環境が整備）
- 移行先のNGNでは、ユーザがOABJ電話サービス提供事業者を選択する余地がない。



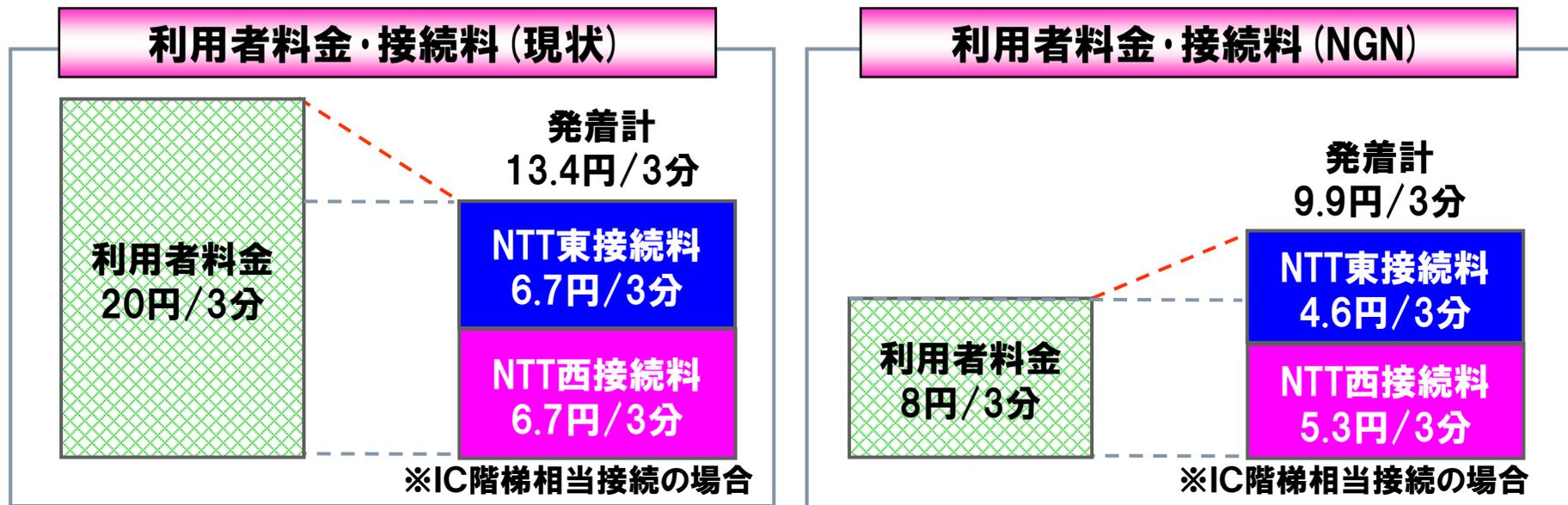
- アナログ電話市場からOABJ-IP電話市場への移行に伴い、マイラインの登録数は減少。
- 一方、移行先のOABJ-IP電話市場では、NTT東西の利用数は1,000万ユーザを越え、シェアは約70%を占める。



NGN電話サービスの競争環境実現のために、考えられる具体的施策は次の2案。

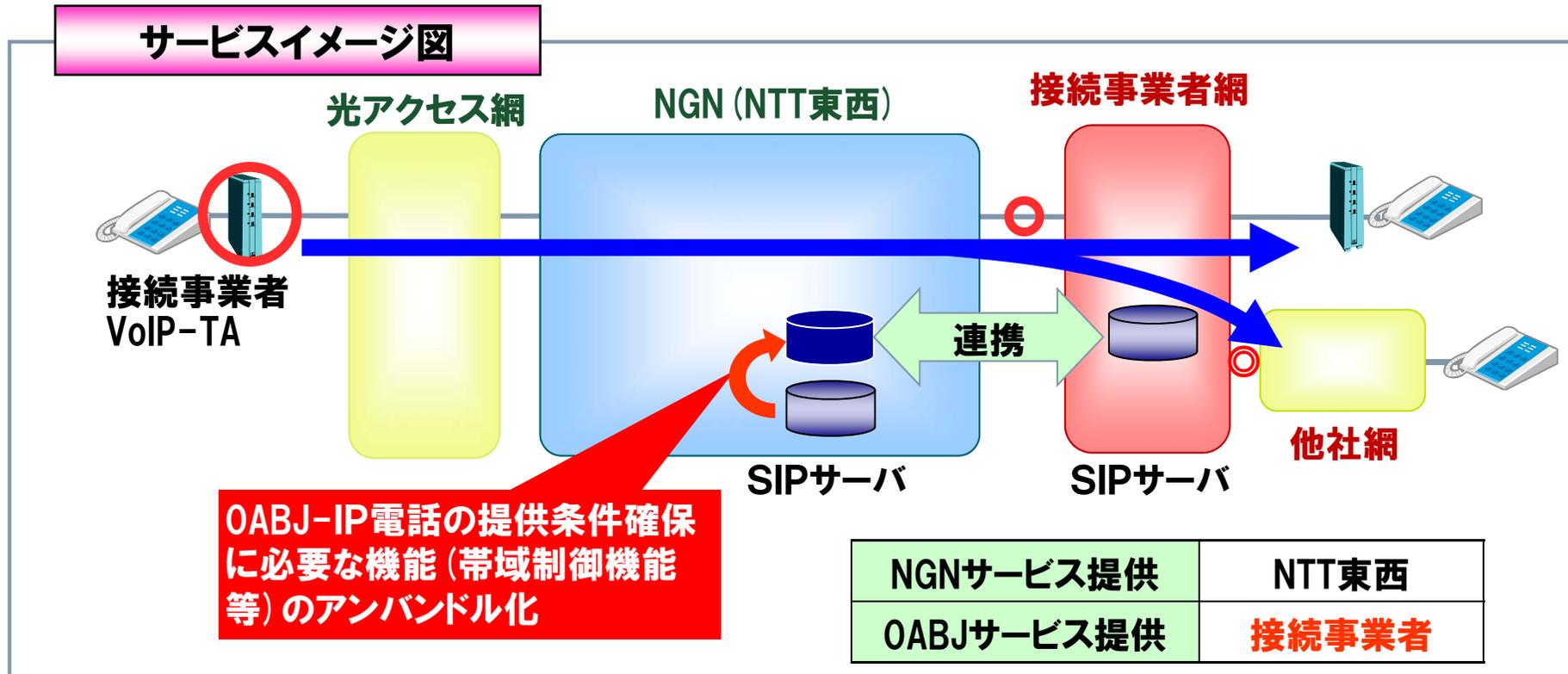
案①：NGNにおけるマイライン制度

- 中継事業者の選択機能を実装し、NGNにおけるマイライン提供を実現。
- しかしながらIP電話市場は料金単価が小さいため、市場規模は相当程度縮小。また現状の接続料コスト構造では、事業を成立させることは困難。接続料に対する抜本的な見直しが必要。

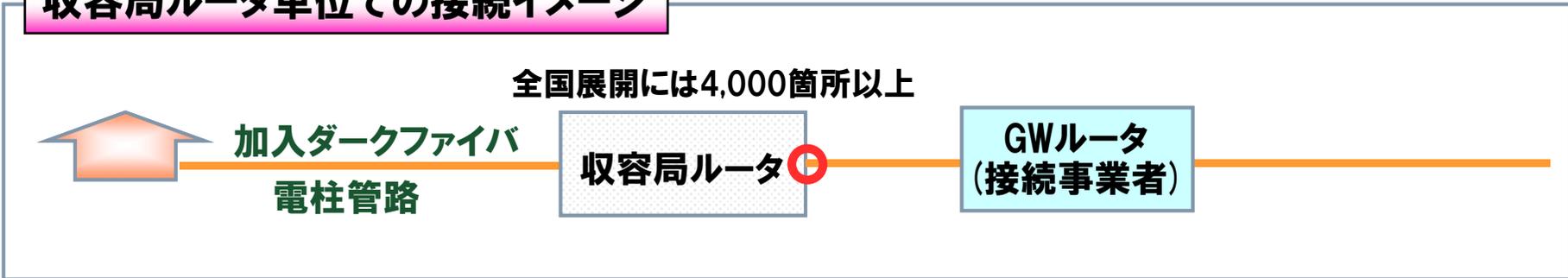


案②：接続事業者によるNGN電話サービスの提供

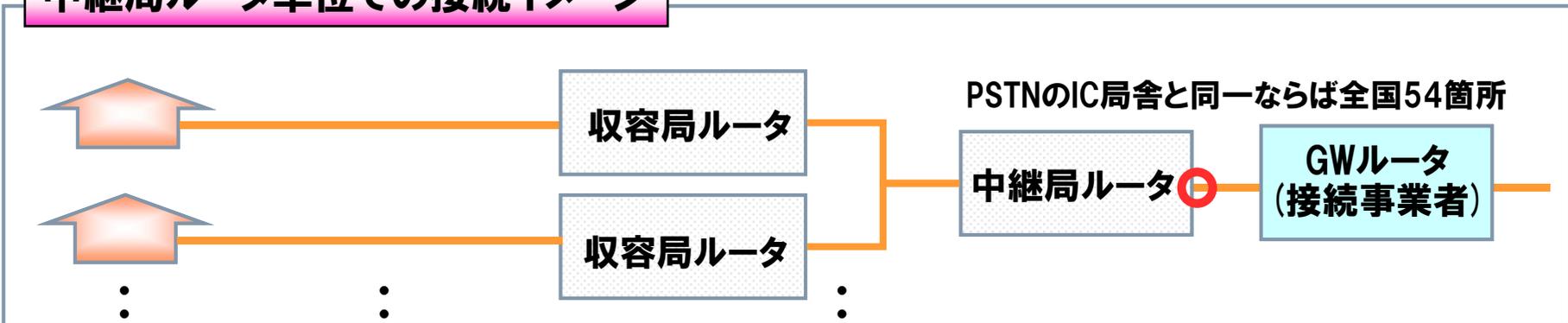
- 接続事業者が、NTT東西同様に光アクセス回線・NGNを一体的に利用できれば、NGN上でOABJ-IP電話の提供は可能。
- そのためにはNGNの帯域制御機能のアンバンドルが必要（通話品質確保のため）



収容局ルータ単位での接続イメージ



中継局ルータ単位での接続イメージ



- 光アクセス回線を束ねる収容局ルータ単位の接続は、中小事業者にとって過大な設備投資及び運用費の負担が発生するため困難。
- 中継局ルータ単位の接続により、光アクセス回線を利用できる環境が必要。

- 案①NGNにおけるマイライン制度に関しては、マイラインの市場規模は小さく、現状の接続料コスト構造では事業の成立が困難。
- 案②接続事業者によるNGN電話サービスの提供では、次の効用が期待できる。
 - 1) 中継局接続による新規参入の促進(比較的少ない設備投資での市場参入)。ユーザの選択肢が増え、電話市場の活性化。
 - 2) オールIP通信による、音声通信を核とした付加価値サービス発展の可能性。

- 以上より、案②による競争環境が早期に整備されることを要望します。
- 案②に関連して、NGN(第一種指定電気通信設備)の基本機能として、**帯域制御機能**は本来、アンバンドルされるべきものと考えます。

総務省「光の道」構想に関する基本方針(2010年12月14日)	NGNにおいて実現すべきアンバンドル機能・サービスやIP網への移行に伴う課題について、..(中略)..
	来年中を目途に成案を得る。